歯科医と患者の会話（その２）

▶ 2023.12.31（日）

ある人が，歯が痛いので歯科医院を訪れています。
患者：「ここ，ほれ，ここがしみるのですが…」
歯医者：「どれ，診てさしあげましょうかね。
　　う～ん，なんともなっていないようですが…」
患者：「でも，冷たい水を飲むと滲みるんです。」
歯医者：「はい，もっと大きく口を開けてっ！」
と，歯医者は口の中に指をいれて，１本の歯をつまみ，ゆすります。
患者：「いで，いで，いで…
　　痛いのですが。」
歯医者：「気のせいですよ。
　　なんともないようですから…
　　”知覚過敏”ですな。」
患者：「え！？
　　知覚過敏ですか。」
歯医者：「はい，
　　ようするに，気のもちよう，ということです。
　　”痛いの，痛いの，跳んでけ～”と念じてみて下さい。
　　”痛いの”は飛んでいきますから。」
患者：「……」
そんなもんかと思い，歯医者をあとにします。

翌日の朝，まだ歯がずきずきと痛みます。
たまらず，きのうの歯医者へ。
患者：「やはり，歯が痛むのですが。」
歯医者：「そんなことはないんだがなぁ…どれ！
　　こりゃいかんなぁ，深い深い虫歯になっとる。
　　どして，こんなになるまでほっておいたの？
　　いかんでしょうが…」
患者：「え？，エ？
　　深い深い虫歯ですかぁ。
　　あの～，きのうの”知覚過敏”はどうなったのですか？」
歯医者：「知覚過敏なんかじゃないでしょうが…
　　ったくぅ！
　　歯の痛いのがわからんのかねぇ！」
患者：「…
　　すみません！」